■ わが社の使命と夢 ■

何事にも最善を尽す、以て悔いなし

布施真空（株）
代表取締役社長　三浦　高行　氏

戦争が終って

戦前、創業者の多木八之助（たきはちのすけ）氏は先代の鉄工所を引き継いで経営をしていたが、軍靴の足音が高まるにつれ軍儒工場へと統合され、やがてクボタの第2工場長に任命された。敗戦後、教材用の油土（ゆど）（人工の粘土）を手がけるなど、必死に生きた。やがて時代も落ち着きをみせ、大丸百貨店で「暮らしとプラスチック」の展示会が催された。プラスチックの黎明期で「これからの時代を感じる」というので、昭和31（1956）年2月7日、布施市（現東大阪市）に「㈱布施真空成型研究所」を設立、成形機の生産に乗り出した。

2番目の社長

その年日本は国連に加盟し、ようやく戦後の歩みを強め出していた。東海道本線が全線電化、特急「つばめ」が東京～大阪間を7時間30分で走り出した年でもあった。その2年後の昭和33年、工業高校を出た18歳のある少年が入社してきた。仕事に熱中しながら青春時代を過ごした。

それから20年の月日が流れた。創業者は古希を迎えた昭和53（1978）年、「私は引退するが、後任は社員全員で選べばいい」と告げた。当時、社員数19名いたが、その少年、三浦高行氏は下から6番目であった。社内の空気は三浦氏を選ぶ雰囲気になった。

「お前、おやっさんの後大変やな」という同情心が、みんなの声であった。「普通なら同族会社でもおかしくありませんが、創業者には娘さんがお一人で、すでに医学の道を進んでおられましたので、私は2代目でなく2番目の社長です」と振り返る。創業者は相談役に退き、翌日から会社には一切、顔を出すことなく潔く引退したのである。

会社もトップも不死鳥のごとく

技術屋社長として機械の改良、改善に率先して取り組んでいた。その頃、高速道路側壁の消音材の大量成形技術を確立、受注に成功、「静かな道に造り替え」と報じられ、一躍、脚光を浴びていた。グアムやサイパンへの海外旅行も実施した。

ところが平成2（1990）年の株価の暴落、銀行の土地融資の総量規制によって土地神話が崩れ、バブルが崩壊に向かった。50歳の時、腹痛が辛抱しきれないので病院で診断を受けると「大腸がんが進行しています」と宣告された。術後、回復して間もなく経営が行き詰った。山一証券が倒産するなど失われた20年の始まりとなった。

すでに創業者は故人となっており、三浦社長も還暦を迎えていた。「第4コーナーでひっくり返ったようなものです」と述懐する。裁判所に「和議」を申請、売上24億円の時に債務が14億円に上っていた。調停が成立すると、債務の7割カット、残りも10年で返済が認められる。果たせるかな、銀行や仕入れ業者の了解が得られ、従業員ピーク時88名いたが、44名にリストラして再建の道へと歩み出した。

「次世代の成形法確立にメドがついていまし

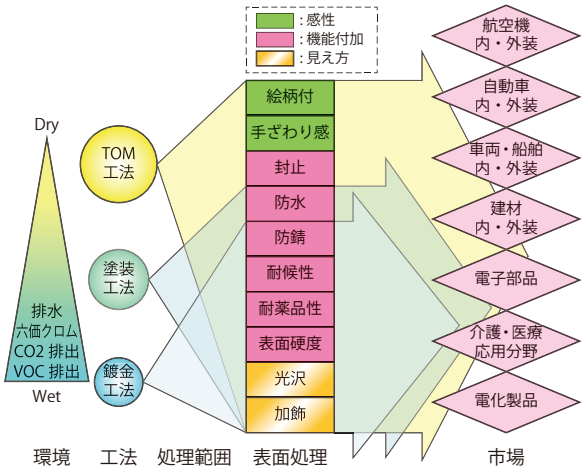
た」ので、なんとしても再生したいと新たな闘志をもやしたのである。

大手ユーザーの連日詣で

熱成形は広く普及している成形法で、雌型または雄型のいずれかの金型にシートを合わせて成形する方法である。もともと鉄工所を経営していたこともあって、成形加工だけでなく成形機も手掛けていた。熱成形のソフトとハードを兼ね備えた独創性の高い企業へと成長できた。

従来の真空成形法の短所を改善して次世代成形法（NGF）を確立、さらにそこから派生して真空孔を必要としない3次元加飾工法（TOM工法）を開発したのである。これによってニッチ市場から脱し塗装・鍍金の代替加工法として、また製品基材の機能性向上の表面処理法とし産業界全体からその将来性に注目されている。その用途は新鋭車両の室内装備品、住宅における設備機器の仕上材、オフィスのデスク＆チェアーやシステム什器あるいは、自動車の内・外装品、レジャー関連商品など多岐にわたっている。

連日、大手有力企業の技術開発担当者の同社訪問が引きも切らないのである。三浦社長は内外の展示会での講演をはじめ、専門誌や学会誌に論文を発表、同社の広告塔の役割も果たしている。



TOM工法で活性化される市場

創立60年を飛躍台に

今年2月、創立60周年を社員だけでささやかな宴を開き祝った。売上は11億円と激減しているが、従業員は75名まで戻している。「これでも利益が確保できています」と、売上の拡大よりも利益重視の筋肉質づくりを目指している。

ここ2，3年大卒の会社訪問を受け、毎年数名の採用に踏み切っている。「何事にも最善を尽す、以て悔いなし」は三浦社長自ら掲げた社是だが、「結果も大事だが経過の中で最善を尽くす、つまり努力が報われることが肝要です」と、社員に語りかける。「100周年を目指すのは若い人たちです。次世代の技術も若い世代で開発してもらいたい。後継者はそういう人たちの中から選んでほしい」と、自らも二人の息子を会社に入れることなく3番目、4番目の社長を若い社員から誕生することを期待している。研究開発体制も徐々にではあるが、整いつつある。75歳になったいま最大の課題は承継問題だが、近くデトロイトへ講演に出かけるなど当分、現役が続くようだ。

大阪科学技術センターへは「子供たちへの科学教育に力を入れていただきたい」と期待されている。

〈トップのプロフィール〉

①生年月日：1940年（昭和15年）3月20日
②最終学歴：府立布施工業高等学校卒
③職歴　　：卒業と同時に同社入社
②趣味　　：読書
③健康法　：電車通勤＋3Fの執務室への階段の上り下り

〈会社の沿革〉

○創業年月日：1956（昭和31）年2月7日
○年商（決算期）：11億5千万円（2015年1月期）
○事業内容：
1．熱可塑性合成樹脂板の真空成形機およびその付属機器の製造販売
2．真空成形用型・治具各種の製造販売
3．真空成形品等の仕上げ加工用トリミング機の製造販売
4．熱可塑性合成樹脂板による各種成形品の製造販売
5．熱可塑性合成樹脂による新製品の開発・試作・研究
○従業員数：社員75名、うちパート17名（2015年9月現在）
○所在地：〒583-0841
大阪府羽曳野市駒ヶ谷2番地103
（柏原羽曳野中小企業工業団地内）
○電話：072-958-1401（代表）
○FAX：072-958-3125
○HP：http://www.fvf.co.jp/
○E-mail：info@fvf.co.jp